カレンダーの日 記念講演

江戸時代奈良の暦師-暦造りと陰陽道-

【概要】

江戸時代、天文方が算出した毎年の暦は、全国の暦問屋や暦師らが摺り出す「仮名暦」の形で人々の手に届けられました。なかでも奈良には、 暦師 として 「奈良暦」を造りながら、占いや祈祷を行う 陰陽師としても人々の暮らしを支えた町がありました。近年研究が進む暦師の町の古文書を読み解きつつ、その営みを紹介します。

寛文六年『南都暦』（国立国会図書館デジタルコレクション）

日時

令和８年 **12 月 3 日(木)**

午前 11:00(開場 10:00)～［講演後『2027 年暦予報』を発表。午後 12:50 終了予定］

講師

京都女子大学 教授 梅田 千尋 氏 Umeda Chihiro

京都女子大学文学部歴史学科教授。 京都大学 文学研究科 博士後期課程 単位取得満期退学。博士（文学）。専門は日本近世社会史。江戸時代を中心に陰陽師・民間宗教者などについて研究している。主な著作・編著に『近世陰陽道組織の研究』『新陰陽道叢書』『幕府天文方の研究』など

場所および配信

会場参加、リモートともに、どなた様でも参加／聴講 可能、無料です【いずれも要申込】

【場所】明治神宮 参集殿にて
東京都渋谷区代々木神園町 1-1

リモート配信閲覧の場合は、
暦文協ホームページを参照ください

【申込】会場参加、リモートとも電子メール（info@rekibunkyo.or.jp）または電話にて暦文協事務局までお申し込みください。ホームページ https://www.rekibunkyo.or.jp

【注意】お車でのご来場はご遠慮ください。

12 月 3 日は「カレンダーの日」

明治 5 年（1872）11月 9 日、宮中において改暦式が行われ、大勢の役人が参席する中、明治天皇は大臣を従えて賢所便殿に出御し、伊勢神宮を遥拝し暦法改正の由を親告なされました。明治天皇の詔書が発せられると、政府は太政官布告により「来る 12月 3 日を以て明治 6 年 1 月 1 日とし太陽暦を実施する」と公布。長い間、太陰太陽暦で生活していた国民にとって、突然の改暦は大変大きな衝撃でした。しかしその結果、太陽暦を採用する諸外国と足並みを揃えることになり、日本は文明開化の道を歩み始めました。

この史実に基づき昭和 63 年（1988）に、全国団扇扇子カレンダー協議会、並びに全国カレンダー出版協同組合連合会によって 12 月 3 日は「カレンダーの日」と定められました。

主 催

一般社団法人
日本カレンダー暦文化振興協会
Japan Association for Calendars and Culture Promotion

お問合せ 事務局
〒110-0016
東京都台東区台東 1-27-11 佐藤第 2 ビル 204 号
TEL 03-5816-5066 FAX 03-5816-5036